

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2393000068
法人名	医療法人寿光会
事業所名	医療法人寿光会グループホーム藤岡
訪問調査日	平成 21 年 3 月 9 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人 『サークル 福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2393000068
法人名	医療法人寿光会
事業所名	医療法人寿光会 グループホーム藤岡
所在地	愛知県豊田市深見町反田1033番地13 (電話) 0565-75-3710

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原町一丁目24番地 N203号室		
訪問調査日	平成21年3月9日	評価確定日	平成21年3月20日

【情報提供票より】(平成21年2月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 4.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(2月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.6 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤岡記念診療所、寿光会中央病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は平成20年3月1日に開設されたグループホームである。木造平屋作りの建物は、新興住宅地の一角に溶け込んでいる。建物内部は天窓や木の梁を見せ広さを感じさせ、各居室は車椅子でも十分動ける広さが確保されている。周囲は、田園地帯がひろがり、車の往来も少なく、散歩コースに適した環境である。運営法人は医療法人であり、老人保健施設も運営しているため、医療面での連携はよく図られている。管理者・職員の志は高く、「日本一のグループホーム」を目標に掲げ、日々努力している。その成果は、「グループホーム藤岡日本一への歩み」として、地域の人たちに発表会を開催して、ホームのありのままの様子を積極的に公開している。ホームは1ユニットであり、介護職員が開設以来同じであることで、職員・利用者とも、笑顔の絶えない「大家族」のように暮らす様子が伺えた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームは、平成20年3月の開所であり、今回が初めての自己評価となる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、自己評価が初めてという職員が多いこともあり、実施にあたってはその意義の理解から始めた。その後管理者が職員の役割ごとに評価の項目を割り振り、各人が担当箇所を記入し、最終的に管理者がとりまとめをする形で作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的に2か月毎に開かれ、家族代表、地域包括支援センター、地域の民生委員、職員、提携医療先の看護師の参加である。会議の内容は、サービス内容、ホーム行事予定、日々の暮らしや取り組みなど、その時々々の案件が議題となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は毎月定期的に訪問される方が多く、家族の来所時に意見や不満、相談苦情を受けようとしている。訪問の際には気軽に言ってもらえるように働きかけたり、玄関に意見箱を置いて言いにくい意見の把握にも努めている。訪れやすい、職員と話しやすい雰囲気づくりを心掛けられている。細かな事柄でも家族と密に電話連絡をとりあっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の中に溶け込もうとする姿勢は開設前から始まっており、管理者は地域の方への挨拶周りを重視した。さらに、地域の一人として、区費を納めている。ホームとして、地域に開かれたホームでありたいと考えている。ホームの行事の際には、地域の方を招待したり、地域の中学生ボランティアと交流する機会もつづけている。今後は、災害時の受入先にするをはじめ、双方向の関係を築きたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の理念である「心の介護」を基本理念としている。さらに独自の取り組みとして、「笑顔へ導くサービス提供」を実践します、「地域との調和」を大切にします、をホーム理念としている。理念に掲げたように、ホームとして、地域との関わりを大切にしながら、地域の頼れるホームになりたいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念は玄関に掲げられ、日々確認し、笑顔で利用者に接し、ゆとりを持った介護を目指している。管理者は、職員に対して何が大切かを伝えるときは、ホーム理念である「心の介護」に基づいて、職務に励むよう指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に密着したホームを目指し、クリスマス会には地元の中学生によるソーラン隊やマジックボランティア、近隣の方々と交えたクリスマス会を開催し、ホームを知ってもらう機会を持っている。開設にあたって、管理者は近隣へのあいさつ回りを重視し、理解を求めた。区費を納め、ホームのありのままを知ってもらうため、地域の方も交えた発表会を行った。	○	地域密着型サービス事業所として、ホーム開設初年度で終わることなく、継続して地域住民との交流の機会をつくることを期待したい。双方向の関係を築くため、小・中学校への行事参加や町内の盆踊りへの参加に取り組まいたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価である。自己評価の意義の理解から取り組まれた。自己評価票への記述は、管理者が職員の役割を考えて担当箇所を割り振り、記入者の負担を軽減した。外部評価の結果は、後日職員で共有することが予定されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月ごとに開かれている。出席者は、利用者家族代表、職員の他、地域からの参加者としては民生委員、地域包括支援センターの職員である。その時々々の案件が議題となっている。施設の行事予定や、インフルエンザ対策など、議題は多岐にわたっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員の運営推進会議への参加はないが、管理者は開設の手続きなどで市の担当部署に相談に出かけて行き、つながりをもっている。また、市の介護相談員が毎月1回訪問しており、その際に情報交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりが分かるように、行事等の様子が書かれた毎月の便りを作成し、家族に送付している。各利用者ごとに写真も同封して、日常の様子を知ってもらうように努めている。周囲に店がなく、お金を使うことは少ないこともあり、金銭管理はしていないが、小遣い程度の金銭を持っている人もいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表の参加がある。毎月の家族への報告書のなかには、行事等でとった利用者の写真が入れられ、細かく様子を知らせている。要望意見について、家族が気楽に意見をいえるような雰囲気づくりも大切にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームでは、開設から職員の離職や異動はない。利用者にも安心した支援ができています。職員の離職がないことで、お互いに親密な関係ができ、大きな家族のように暮らせることを目指している。今後も、離職者が少ないホームを目指されたい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修参加に対して、できる限り機会を設けるようにしている。ホーム開設以来、AED研修を事務所で全職員で取り組んだ。ホーム外の研修については、職員が、研修に出かけやすいように配慮されている。非常勤職員に対しての外部研修の機会も設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は介護職に長年携わっており、同業者とのつながりも多い。グループホーム連絡協議会等には参加していないが、今年度の、全国グループホーム協会の大会で当ホームで取り組んだ「ドリームマップ(夢の地図)」の発表を考えている。	○	今後、ホーム職員についても、他ホームとの交流の機会を持つことを期待したい。平成21年5月に行われる全国グループホーム協会の大会に参加を予定していることもあり、このような機会を通じて、他のホームの現状等について、情報交換をしながら、職員の力量向上につなげていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入居の際には、本人や家族に、入居している利用者が普段どのように過ごしているかを見たり、互いに交流して判断してもらっている。家族と本人の意見が違う場合は、時間をかけて納得を得るように努めている。関連の老人保健施設からの入居もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族のような関係でいたいという意識を共有して、食事作りや生活の知恵という面では、利用者から職員の方が教えてもらうことも多い。利用者の知識や経験を活かす様に心がけており、ホームでの暮らしは、利用者同士がお互いに声をかけあいながら、支えあっている場面もあり、職員は、その様子を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接話を聞く以外に、利用者同士の会話からも希望や好みの把握に努めている。職員は、得た情報から関心のありそうな本などを図書館で借りたこともあった。また、一人ひとりが何をしたいのか、何を思っているのかを把握するために、「ドリーム・マップ」を作成して、前向きな生活の実現を目指している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に家族に利用者の様子を説明し、要望、希望を聞きケアプラン作成に活かしている。さらに「ドリーム・マップ」作成の過程で見出された、一人ひとりの思いを実現できるようなケアプランも目指している。職員は、毎日の生活から気づいたポイントを業務日誌とは別のケアノートに記載し、サービス担当者会議で活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月毎に見直している。介護計画は、短期目標・長期目標を設定し、その計画に基づく見直しもされている。日々の生活場面における記録について、記録の正確さを帰すために、日勤者と夜勤者では筆記具の色を黒と赤との分けをしてミス防止の工夫しながら、介護計画に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業主体が医療法人であり、月2回の協力医療機関の往診と訪問看護の訪問がある。眼科と整形以外は緊急の場合でも提携病院との連携が図られ安心感がある。また、今後、2ユニット目の開設も予定されており、地域に根ざしたホームを目指している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営法人の医療機関は遠方(三好町)であるが、受診の際には、職員が同行することも可能である。利用者希望のかかりつけ医の受診時は、有料で職員が付き添うことで対応している。緊急時の病院選びは、事前に家族との話し合いで決められ、個人ファイルに受診する医療機関名が記載されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状、ターミナルケアの体制はないが、提携する医療機関と協力して、可能な限りホームで過ごしてもらうよう努めている。現状、ホームの利用者については、互いに助け合いながら共同生活ができる状況であるが、重度化の問題については、今後の課題と考えている。	○	開設当初、共同生活ができる利用者で開始したことで、今後、全体的に介護度が重くなる可能性も考えられる。事前に家族との話し合いは重要であるが、実際に重度化の問題が起きると、家族の意見や思いが変化することもある。重度化した場合の事前指定書の作成と、それに基づいた継続した話し合いに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の情報を漏らさないように気をつけ、個人情報事務所で管理している。言葉かけについて、職員には、人生の先輩に対する敬意を持った言葉遣いで接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活は、利用者一人ひとりのペースを大切にしている。レクリエーションの企画も利用者の意向をくんで決められている。体調などで参加したくないときは強制しないようにしている。利用者が他の利用者をサポートする場面も見られ、一緒に生活する様子が伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は外部業者を利用しているが、週に一度は、ホーム独自のメニューにしている。調理が得意な人は調理に参加し、職員は出来ない部分を補助している。食事後の片付けも、できる人は自分で下膳したり、他の人の食器を片付けたりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則、火曜、金曜だが、必要に応じ入浴できるようにしている。時間の希望は午前、午後と利用者の希望を聞いている。着替えはこまめに行い、清潔を保っている。利用者の体調により、足浴が必要な場合には随時なされている。	○	現在入浴については、原則週2回となっているが、利用者にとって入浴も楽しみの一つである。今後、職員のシフトを工夫しながら、回数を増やす取り組みに期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりがしたいことの把握に努め、料理が好きな方には食事作りに参加したり、音楽や歌好きな方が、それぞれ得意なことが活かせるようにしている。花が好きな方には、玄関のプランターの花々の水遣いを任せたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	部屋に閉じこもりがちにならないように、天気の良いときは散歩に出かけている。近くには田畑が広がり、車通りが少ない散歩コースがある。買い物も、利用者と職員が一緒に行くこともある。散歩が難しい時は、おやつを玄関先のアプローチでとるようなど、戸外に出ることを促している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつでも出て行けるという安心感、気楽に訪問してもらうことを大切にしている。玄関は、夜7時から翌朝6時30分まで施錠されている。部屋には内鍵と外鍵がついており就寝時に内鍵を掛けられる方もいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と春、秋と年2回の避難訓練を実施した。利用者の全員参加で次年度は3回の訓練を予定している。避難場所まで遠いため、当ホームが、近隣の避難場所として利用されるよう、備蓄など整えていくことを考えている。また、AEDも設置しており、緊急時に対応できるようにしている。	○	地域住民と互い助け合える関係を築く取り組みを、引き続き期待したい。夜間の避難体制の確保を行なうとともに、災害に対する備蓄についても検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食記録されている。利用者のその時々 の状態に応じて普通食、粥食、キザミ食が用意されて いる。ゆっくりと時間をかける人にはそのように配慮して いる。水分については、毎食後のチェックがなされて いる他、10時、15時、入浴後にも補給があり、摂取量 は充分である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって 不快な音や光がないように配慮し、生活感 や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせ るような工夫をしている	ホーム玄関やリビングには花が飾られ、廊下には全員 で作った「ドリームマップ」や習字の作品が貼られてい る。光が差し込む天窗や梁をそのままにした廊下は、 明るくなっていて、ホーム全体を明るい雰囲気にして いる。掃除は毎朝利用者とともになされ、常に清潔に している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族 と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室は広め設計で、窓は掃きだし窓となっていて、洗 面台、収納戸棚も設置している。家具は、利用者が使 い慣れたものが持ちこまれている。居室は、一人ひとり の個性を大切にしながら、家族との思い出の写真や、 自分の好みのものを飾ったりしている。		